



上野焼陶器まつり

が4月28日から30日までの3日間、上野焼協同組合の16窯元と上野の里ふれあい交流会館で開かれました。お買い得な割引商品やチャリティー商品がズラリと店頭に並び、訪れた陶芸ファンは趣深い風合いや手に取った感触などを楽しみました。期間中はシャトルバスが運行され、毎回好評の空くじなしのスタンプラリーも開催。ふれあい市の大売り出しも人気を集めました。天候に恵まれた汗ばむ陽気の中、上野の里は1万人を超える人出でにぎわいました。



▼親子の絆、友だち同士の絆、地域の絆など、人間社会を潤いのあるものとするためには、

欠くことのできない論理規範として、「絆」という言葉が用いられている。これを、広辞苑で調べてみると、その一つに、「断つにしのびない恩愛、離れがたい情実」とある▼ところが、私たちの暮らしている社会では、親子間、友人間で起きた悲しむべき事件が、連日のように報道されている。事件のきっかけとなった原因や経緯に、多少の違いはあっても、ほぼ類似しているように思う。その殆どが、お互いを理解しようとする姿勢や、自分が少々納得がいなくても相手を受け入れようとする気持ちの欠如によるものである▼もともと、人間は自己中心的な存在ではあるが、同時に、他者と共存しなければ生きていけない存在でもある。これまで、権利の主張に光があてられ、その対となる義務を果たすということが、あまり強調されなかつたため、自己中心的な側面が、他者との共存という意識を上回り、現代社会に暗い影を落とし始めたのではないだろうか▼私たちの地域社会を見ても、他者とのかわりを嫌って、組内に入らないというケースが増えてきている。確かに、個々の生活は大切にされなければならぬが、多くの人の支えにより、自分が生かされている現実を忘れてはなるまい。一人ひとり、自らをとりまく関係を見つめ直し、更なる深化にこそ(情実)を砕く時期がきているのではないだろうか。

浦田 弘二